

流量調整機能	間欠定量ポンプ(流調) バルブ開度(%)			循環装置	エアリフトポンプ(循環) バルブ開度(%)			散気バルブ	逆洗バルブ
	5人	7人	10人		5人	7人	10人		
有	23~30	27~32	40~50	有	33~37	45~50	41~45	50	50

エアリフトポンプ(逆洗水) バルブ開度(%)		
5人	7人	10人
13~18	13~18	15~23

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期
5・7	80	80	5	2:00 3:00	2	1日
10	100	100				

[人槽に対する流量調整水量・循環水量・逆洗水量の設定範囲]

人槽			5	7	10
流量調整装置	間欠定量ポンプ	移送水量(ℓ/分)	3.0~3.5	3.9~4.9	5.7~7.0
循環装置	エアリフトポンプ	移送水量(ℓ/分)	2.0~2.6	2.9~3.8	4.5~5.5
逆洗装置	エアリフトポンプ	移送水量(ℓ/分)	6~9	8~11	12~18

特 徴

嫌気ろ床槽 流入水中の固形物、浮遊物質を分離し、汚泥を貯留する。第1室は下向流で第2室は上昇流であり、ろ材が充填されている。間欠定量ポンプによって、担体流動生物ろ過槽へ移送され、槽上部は流量調整部となっており、水位が変動する。

担体流動生物ろ過槽 担体流出を防止する担体押さえと担体受けの間に、比重の異なる2種類の担体が充填されている。散気管上部は比重の小さい担体が流動し、その下では比重の大きい担体が静止している。ろ過部の閉塞を防ぐためタイマー制御により逆洗管から送気され担体が攪拌される。剥離汚泥は槽底部の取水口よりエアリフトポンプにて揚水され、嫌気ろ床槽第1室へ移送される。

処理水槽 槽底部の取水口よりエアリフトポンプにて嫌気ろ床槽第1室へ常時循環される。

作業時のポイント

保守点検

- ①ブロウのタイマー設定(現在時刻、開始時刻、終了時刻)を必ず確認してください。
- ②流量調整移送水量は、一回の吐出水量(約1.3~1.5ℓ)を実測し、吐出終了から次の吐出終了までの時間を計測してください。これらの結果から1分あたりの移送水量を算出してください(上表参照)。
- ③循環水量を上表の水量になるよう実測して確認してください。調整はバルブ、せき高で行ってください。
- ④担体流動槽のばっ気状態、気泡の均一な上昇、担体の流動状況を確認してください。
- ⑤手動逆洗を行い気泡の均一な上昇と逆洗移送水量の確認を行ってください。

清掃

- ①嫌気ろ床槽第1室の汚泥・スカム等は、全量引き抜いてください。第2室は適正量としてください。
- ②生物ろ過槽の清掃が必要な場合は、手動逆洗を行いながら処理水槽から汚泥を引き抜いてください。